

I

■出題のねらい

数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bの内容から、式の計算、円の方程式、指数・対数、平面ベクトルを選び、基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 空所「ア」はよくできていましたが、空所「イ」はできがよくありませんでした。
- (2) 空所「エ」で $\bar{r}$ を使って表した誤答が多く見受けられました。
- (3) 空所「カ」が難しかったようです。指数と対数のグラフの関係について、よく理解してください。
- (4) よくできていました。

II

■出題のねらい

階差数列に関する基本的な計算と数列の和について問いました。

■採点講評

- (1) できる人とできない人に分かれました。丁寧に考えていけば難しくないはずです。
- (2) 数列の和の計算ができないのか、正答に辿りついた人は少なかったです。
- (3) 比較的よくできていました。
- (4) 最初の数項を計算すれば予想できます。また、解答を503とする惜しい誤答も見受けられました。

III

■出題のねらい

対数関数を題材に、微分と三角関数の基本的な知識と理解を問いました。

■採点講評

全体的によくできていました。

- (1) $(2 \log x)' = \log x + \frac{2}{x}$ とするなど微分ができていない解答が見受けられました。
また、接線を求める際に微分係数に $x = m$ を代入していない解答も見受けられました。
- (2) $\tan x$ の意味を考えるとすぐ正答に辿りつくのですが、わざわざ x 切片、 y 切片を求めて計算した結果、間違えてしまう解答がありました。
- (3) 符号が違うなど、加法定理の公式を間違えている解答が多く見受けられました。
- (4) (4)まで辿りついた人はほぼできていましたが、 m 、 n は自然数という条件を見落としている人が散見されました。

IV

■出題のねらい

絶対値を含む関数を題材に、適切な場合分けを行いグラフを書くこと、積分の応用として図形の面積と回転体の体積について問いました。

■採点講評

- (1) よくできていましたが、場合分けができていない解答が見受けられました。
- (2) ほとんどの人ができていました。
- (3) 回転体の体積を求める式を作るまではよくできていましたが、途中で計算ミスをしている解答が多く見受けられました。
- (4) 極限について基本的な事項を理解していれば解ける問題でしたが、正答に辿りつけていた人は多くありませんでした。

V

■出題のねらい

三角関数に関する基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 予想よりできていませんでした。三角関数の基本的な計算ですので、確実に解けるようにしておきましょう。
- (2) 空所「オ」はよくできていました。 $\angle AOQ = 2\theta$ であることを利用すれば、空所「カ」、「キ」は空所「ウ」、「エ」よりすぐに求まります。しかし、気づけなかった人が多かったようです。

VI

■出題のねらい

2次関数の基本的な知識および多項式の微積分の理解と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていましたが、計算ミスをしている人がいました。
- (2) 微分を使わずに、 $t = 1$ のときに S が最大としている誤答が多く見受けられました。微分を使う方法で解いた人は、よくできていました。
- (3) (2)が解けた人はよくできていました。

I

■出題のねらい

野球のボールの運動を題材に、運動量、力積、放物運動に関する基本的な問題を出題しました。また、応用問題として、放物運動の物理現象を数学的に取り扱うことができるかを問いました。

■採点講評

全体の正答率は約50%でした。(1)は、ボールがバットに当たる前後での運動量、力積に関する問題です。1)は、ほとんどの受験者ができていました。2)、3)は「運動量の変化は力積に等しい」ことから、ボールが受けた力積の向きと大きさを求める問題です。2)のベクトルの作図を正答できた受験者は、約50%でした。力学の問題では、物体や質点にはたらく力の大きさや向きをベクトルで表して作図する問題が出題されますので、しっかり学習しておきましょう。3)は、大問Iの中で最も正答率が低かったです。教科書の例題として掲載されている問題です。理解しておきましょう。

(2)は、放物運動に関する問題です。4)、5)はよくできていました。放物運動の問題を解くときには、 x 座標の式と y 座標の式を組み合わせる用いるので、式の取り扱いができるようにしておきましょう。7)のような問題を苦手としている受験者が多かったです。運動エネルギーが2倍になるということは、速度の2乗の値が2倍になります。

ア、イはよくできていました。イは計算が少し煩雑ですが、数学の計算力があれば正答できる問題です。8)は、式③の不等式を満たす V^2 を求めます。 V の4次式なので、 V^2 を X で置き換えれば X の2次式になります。9)を求めるためには、式④がヒントになります。 $\tan \theta_M = \frac{x \text{ 軸から点Bまでの高さ}}{L}$ であり、 x 軸から点Aまでの高さが H なので、すぐに正答がわかります。そうすると、 $\triangle ABO$ が二等辺三角形であることがわかるので、ウに入る語句を導くことができます。これらの計算を通して物理現象がきちんとイメージできれば、10)の作図ができます。10)の正答率は約20%でした。

物理を理解するためには、数学を使って物理の内容を表現しながら、同時に自然の中で起こる現象をイメージできることが重要です。大学でいろいろなことを学習するうえでは、このような思考方法を身に付けておく必要があります。

II

■出題のねらい

長い直線状の導線に流れる電流の回りに置かれた導線やコイルなどを題材に、電流と磁場の基本事項について問いました。

■採点講評

基本的な内容であったにもかかわらず、全体の正答率はそれほど高くありませんでした。

1) はよくできていましたが、2) で受験者の多くは力の向きを示す矢印を正しく書いていませんでした。平行電流間にはたらく力はその教科書にも出てくる重要な内容です。その力の大きさおよび電流の向きと力の向きの関係をよく理解しておいてください。☐ア～☐ウは導線Qにはたらく力をローレンツ力によって説明する問題で、少々難しく感じたかもしれません。☐ウ以外はあまりできていませんでした。☐イでは、 nS や $n\ell$ という誤答が多く見受けられました。 n は単位体積あたりの電子数なので、導線Qの長さ ℓ 当りに含まれる電子数を求めるには n にその部分の体積を掛ける必要があります。3)、4) は比較的よくできていました。3) は、2) と同様に基本事項です。4) では、辺adにはたらく力の大きさが導線Pに近いため、辺bcにはたらく力の大きさよりも大きく、互いに力の向きは逆となります。一方、辺abと辺dcにはたらく力の大きさは同じで、向きは逆となります。このことから、コイル全体に対して z 軸方向には力がはたらかず、 x 軸の負の向きに力がはたらくことがわかります。5) では、平行電流間にはたらく力によって説明を試みた誤答が多く見受けられました。ここでは、導線Pから離れるほど強さが減少する磁場中をコイルが x 軸の正の向きに進むとき、コイルを貫く磁束の減少を補うように $a \rightarrow b \rightarrow c \rightarrow d \rightarrow a$ の向きに電流が流れるといった現象をイメージし、理解しておくことが肝要です。なお、コイルの辺ad、辺bcに相当する導線部分が磁場中を動くことで発生する誘導起電力や誘導電流という観点から理由を正しく説明している場合も正答としました。

このように、単に式や名称を暗記するだけでは高得点は望めません。日頃より、基本的な法則や式の意味を深く理解して物理現象を捉えるような学習を心掛けてください。

III

■出題のねらい

光学に関する基本概念についての問題です。公式を覚えているかではなく、基本的な概念から論理的に組み立てて現象を理解できるかどうかを問いました。

■採点講評

(1) レンズについての基本的な問題です。1), 2) は図形を正確に読み取れば容易に正答できます。よくできていました。3) グラフはデータの点を正確に記入して、2) の m , b , f の関係に着目すれば直線が書けます。原点 $(0, 0)$ を通る線を書こうとした誤答が見受けられました。グラフの特徴から f を求めるためには、直線の切片、直線の傾きなどに着目すればよいです。一点の値(表の1組の数値)を数式に代入して求めたのでは、グラフを利用したことにはなりません。4) は、式①に $b=3a$, $f=6$ を代入して計算すれば正答できます。分数式ですが、正確に計算してください。正答率は約50%でした。

(2) レンズの焦点距離を物理的な基本法則から導き出すことができるかを問いました。5) 屈折の法則は、問題文中に α と r の関係として示されています。 α と r を β と i に置き換えれば示すことができます。図からも明らかのように $\beta > i$ ですから、逆の式を示すような間違いには気づいて欲しいです。また、法則としては厳密で正しいですが、 $\sin \beta$, $\sin i$ を使って示している解答は、題意を理解していないものとみなされます。試験の解答としては正答としましたが、注意してください。6) は、問題通り幾何学的に考えれば簡易です。7) は、式②と図4(あるいは文中の数式)だけで理解できるので、よくできていました。

(3) レンズの結像は、図1のように光軸に平行な光線とレンズの中心通る光線のみで示されますが、それ以外のすべての光線について確かめる問題です。問題文をよく読んで論理的な進め方ができるようにしましょう。図と数式を組み合わせれば理解できるはずです。8), 9) とも数式を正確に処理すれば正答できます。正答率は約20%でした。

I

■出題のねらい

ヘンリーの法則を題材にして、水に対する気体の溶解度や気体の物質量と質量の関係について問いました。

■採点講評

全体的に、あまりできていませんでした。

(1)では、「ヘンリーの法則」という法則名を問いましたが、「ボイルの法則」、「シャルルの法則」、「ヘスの法則」あるいは「ドルトンの分圧の法則」など、化学の教科書に出てくるほとんどすべての法則が解答されており、「ヘンリーの法則」と解答した受験者があまりにも少なかったです。頻出される大切な法則は、名称とその法則の内容を対にして理解しておくことが必要です。(2)では、気体の窒素について、物質量から質量への変換を要求しました。誤答のほとんどは、窒素の化学式を N_2 ではなく N だと間違えて理解していることが原因で生じていました。また、(2)～(7)では、指数表示ができていない受験者がいました。指数表示では、例えば 2.035×10^{-3} のように、小数点の前に記入する数字は1～9でなければなりません。また、有効数字の理解ができていない受験者もいました。先の例では有効数字は4桁です。指数表示がちゃんとできると、有効数字も容易に理解できます。(5)、(6)では、酸素の物質量や質量が窒素の物質量や質量の何倍かが問われています。これを逆に読み違えている解答が多数見受けられました。問題は最後までしっかり読んで、それから解答する習慣をつけましょう。(8)は、容易な問題だと考え出題しましたが、正答が少なかったです。空気が飽和している水の中に、窒素を吹き込んでいくと、当然、水の中の窒素の分圧は大きくなっていきます。(9)は、(1)～(9)の問題の中で最もよくできていました。塩基性を示すのは、当然水酸化物イオン OH^- です。この水酸化物イオンができない化学反応式も多数見受けられました。

ヘンリーの法則は、化学計算の力を試す問題として、入試によく出題されます。必ず練習しておいてください。

II

■出題のねらい

無機化学：各種金属（Ag, Al, Cu, FeおよびAu）の反応性や性質に関する知識を問いました。

■採点講評

基本的な問題でしたが、正答率は約50%でした。

- (1) 金属の性質をよく理解しておいてください。解答は、元素記号で記すように指示しています。問題をよく読むようにしてください。
- (2) 金属のイオン化傾向の序列：(Li, K, Ca, Na) > Mg > (Al, Zn, Fe) > (Ni, Sn, Pb) > (H₂, Cu) > (Hg, Ag) > (Pt, Au) をしっかりと理解しておいてください。水素（H₂）よりもイオン化傾向の高い金属に、塩酸などの酸を加えると水素が発生します。
- (3) 両性元素（Al, Zn, Sn, Pb）は、酸だけでなく強塩基の水溶液とも反応し、水素を発生して溶解します。
- (4) 1) では、硝酸（HNO₃）から二酸化窒素（NO₂）への酸化還元反応式、2) では、1) をヒントに、銀と濃硝酸の化学反応式を導けるようにしてください。Agはイオン化傾向が水素よりも低いので、濃硝酸を加えても水素は発生しないことに注意してください。
- (5) アルミニウムの粉末と酸化鉄（Ⅲ）Fe₂O₃の混合物に点火すると、反応とともに多量の熱が生じて融解したFeが生成します（テルミット反応）。この化学反応を化学式で書けるようにしておいてください。解答では、テルミット反応を、融解塩電解、弱酸遊離反応、電解精錬など誤答がありました。教科書に記載されている語句について、正確に理解しておいてください。
- (6) 結晶構造についての問題は、比較的よくできていました。体心立方格子、面心立方格子について、今後も出題される可能性があります。よく理解しておいてください。

III

■出題のねらい

最も単純な有機化合物である炭化水素（アルカン，アルケン，アルキン）に関して，一般式，性質，名称，構造式，反応，異性体についての基本的な知識を確認する問題でした。

■採点講評

（１）は，アルカン，アルケン，アルキンの一般式と，それに関連する異性体の名称を問う問題です。解答群から選ぶ方式でしたので，非常によくできていました。ただ，「Ⅰ」の正答率が低かったです（正答は「⑦シス・トランス」なのですが，「⑧光学」を選んでいる解答が多い）。異性体の種類を相互に関連させて理解しておくように心掛けましょう。

（２）は，アルカンとアルケンの一般式において炭素数が違う各有機化合物の性質，生成方法を問う問題です。（１）と同じく記憶が曖昧な解答が多く見受けられましたので，炭化水素の性質を系統的に記憶しておいてください。特に「C」において誤答がかなり見受けられました（「３」（種類）と記入した解答が多い）。教科書に必ず記載されていますので，確実に記憶しておきましょう。また，文章のつながりをよく読むと，ヒントになる表現があります。前後の文章や文言との関係に気をつけましょう。

（３）は，性質や反応から推測して有機化合物の名称と構造式について問う問題です。構造式で水素原子の数を間違えている解答が散見されました。また，曖昧な解答もありました。化合物Cの誤答で，ジエチルエーテルが多数見受けられました。

（４）は，化学反応式から物質量を基に使用する試薬の質量を問う問題です。正確に計算できるように日頃から化学式などを書き，物質量や質量を求める計算をマスターしておく習慣を身に付けましょう。

いずれも有機化学の基本知識があれば解ける問題です。全般的によくできていました。

生物の入試問題は教科書の内容を基本としており、教科書をしっかり勉強することが最大の入試対策です。教科書の図版の内容や「探究」といった項目も出題の対象になりますので、注意して勉強してください。

B 日程では「細胞」、「代謝」、「生物の多様性」、「進化」をテーマに出題しました。

I

■出題のねらい

(1) では、人体の構成および細胞の分裂や構造について、基本的な理解を問いました。人体の組織は、新課程の学習指導要領に明確な言及はありませんが、大学の学習での重要性に鑑み、基本的な知識を問いました。細胞分裂とタンパク質合成は、計算問題で理解を確認しました。

(2) では、代謝について基本的な理解を問いました。特に発酵は、実験を通して温度の影響に関する知識、グラフの見方を問いました。また、触媒の酵素反応に関する理解を計算問題で確認しました。

■採点講評

正答率は約55%でした。(1) (2) 図中の細胞の各部位と機能・性質を対応させる問題の正答率が低めでした。このような、教科書の図の中で説明されていることを問う問題は、正答率が低くなりがちです。生物ではビジュアルな情報も非常に重要で、用語を言葉として覚えるだけでは不十分です。部位の名前、形、大きさ、数、位置関係などを正確に把握するよう心掛けましょう。6) 細胞分裂に関する計算問題は、教科書の細胞周期の観察に関連する内容を知っていれば難しくありません。特にここでは、分裂期の細胞と間期の細胞が光学顕微鏡下では染色体の有無によって区別できることが重要です。それがわかれば、細胞全体に占める分裂期の細胞の割合から分裂期の長さを計算できるので、細胞周期からG1期、S期、分裂期の時間を差し引くことで正答が求まります。このテーマは頻出なので、教科書の細胞分裂の解説だけでなく、関連する実験の手順、実験器具、実験材料、実験上の注意点も含めて正確に学習してください。7) は、アミノ酸の長さやイントロンの割合からmRNAのなかでアミノ酸に翻訳される部分の長さを求める問題でした。コドンが3つ一組の塩基配列で構成されること、イントロンはスプライシングで取り除かれること、といった知識を組み合わせ解く必要があります。問題では「スプライシング後の伝令RNA (mRNA) のうち」と指示しているのに、スプライシング前の配列の長さで計算している解答が多かったです。問題文を注意深く読む習慣をつけましょう。

(2) 前半の空欄補充問題はよくできていましたが、2)以降の問題の正答率は全体的に低めでした。2)のような、呼吸、発酵のプロセスでどの分子がいくつ使われて、何がいくつ生成されるか、に関する問題は頻出です。3)では、解答がかなりばらついており、光合成そのものに関する知識が不足しているように思われます。光合成は現在工業的にも旬な話題ですので、しっかり学習すべき単元です。例えば、クロロフィルがどういう光を吸収しやすいかということは、植物工場を建設する際に照明をどの色にするか、ということにかかわります。普段の生物の学習では、どうしても取り組みやすい動物に関する単元に目が行きがちですが、大学入試では植物についても満遍なく出題されますので準備しておきましょう。

Ⅱ

■出題のねらい

生物の多様性と進化に関する問題です。(1)は生物の分類、(2)は進化のしくみについて問うています。いずれも基本的な知識を問う問題ですので、しっかりと理解しておいてください。

■採点講評

正答率は約50%でした。(1)最初の空欄補充問題では、五界説に関する問題の正答率が低かったです。五界説は現在では主流の説ではありませんが、系統学の歴史において重要な概念なので、しっかり勉強しておきましょう。また、五界説という概念が、その後どう変遷して現在に至ったかも知っておくべきです。2)～4)の胚葉、新口・旧口動物、植物の分類に関する問題の正答率も低めでした。分類に関することは覚えることが多いため勉強しづらい分野ですが、多種多様な生物を系統立てて理解するためには必須の知識です。これからも出題される分野なので、一つひとつ丁寧に学習してください。

(2)最初の空欄補充では、後半の種分化に関する問題の正答率が低かったです。「種分化には隔離が必要である」ことは教科書に説明されていますが、あまりに基本的な概念のためか、解答しづかったようです。種分化における隔離の重要性を意識できていれば、43の遺伝子の「流入や流動」を選べたはずですが、少し難しかったようです。種分化は自然選択、隔離など色々な要素がかかわる複雑なプロセスですので、それらを整理して全体の流れを理解するようにしましょう。教科書だけを読んでいると、細かい用語に目を奪われて全体の流れがみえなくなります。一般向けの解説本なども読み、全体像を掴むよう心掛けてください。3)は、集団遺伝学に関する問題でしたが、正答率は低めでした。内容は教科書レベルですが、表現の仕方を教科書とは変えてありますので、中身を理解していないと答えられません。表面的に言葉を暗記するのではなく、言葉の意味を考えながら勉強しましょう。また、この問題に限らず「生物」の教科書の後半に出てくる内容は、正答率が低めになりがちです。入試問題作成の際は、必ず教科書を偏りなくカバーするように内容を決めますので、教科書は満遍なく学習するよう心掛けてください。最後のDNAの塩基配列と系統樹の関連を問う問題は、よくできていました。類似の問題はこれからも出題されると思いますので、関連する内容も含めてよく勉強しておいてください。

I

■出題のねらい

テストについての友人同士の会話です。日本語を学ぶPaulが日本人のMisaに、日本語のテストを受験する不安、特に漢字が苦手なことについて話しています。Misaがどのように慰めているか、不安を克服するためにどのようなことをPaulに勧めているのかといったポイントを押さえることが重要となります。

■採点講評

まずまずのできでしたが、やはり英問英答と文章内容全体の理解を問う問題が苦手な人が多いようです。特に「4」の正答率は低く、選択肢的にはどれも当てはまりそうなので、きちんと内容把握ができていないと正答できません。MisaとPaulがPaulの日本語力について述べていますが、情報を整理しながら注意深く読む必要があります。

II

■出題のねらい

宿泊施設で提供される共有キッチンの使用上のルールが述べられています。利用できる時間帯や、調理器具、食器、冷蔵庫などを利用する際の注意点や、宿泊客ができることとできないことを正確に理解しながら読めているかを問います。

■採点講評

本文の情報の文量がやや多い問題でした。最も正答率が低かったのは「7」の問題です。この種の問題を解くポイントは、それぞれの選択肢の中からキーワードを拾い上げ、本文中でそのキーワードが出てくる箇所を注意深く読むことです。また、普段から多くの英文を読む練習をし、語彙力や熟語力も伸ばしておく必要もあります。「9」の正答率も低かったですが、“salt”について書かれている5.の項目4行目に注目し重点的に読めば、場合によっては消去法で解答できたでしょう。

III

■出題のねらい

グラフを参照しつつ英文を読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。また本文の後半では、データが示す社会的背景を理解する力を問うています。

■採点講評

11の“the category”という語句と置きかえられるものを選ぶ問題ですが、その段落のトピックが“dinner restaurants”であることから、“dinner restaurants”と置き換えられると判断できます。また正答率の伸びなかった13で、“fail”の後ろには不定詞がくることは多くの人が理解していましたが、能動態か受動態かで迷ったようでした。主語は“we”なので能動態の“attract”が正答となります。

IV

■出題のねらい

子どもの描いた絵に基づいて特注ぬいぐるみを制作するベンチャー企業について紹介した英文を読み、ビジネスの内容や客の反応、さらには児童心理の専門家による評価などの情報を正確に辿りながら、英語の基本的な語彙・語法の理解や文章全体の内容把握を目指す問題です。多くの人物が登場する文章なので、それぞれの人物に関わる情報の区別や、人物相互の関係を的確に整理しながら読み込むことで、各設問が解答しやすくなります。

■採点講評

全体的に正答率はあまり高くなかったです。特に接続詞を埋める18の正答率は低く、前後の文章の流れが掴めていないと正答できない問題でした。21も正答率が低く、このベンチャー企業の設立経緯、業績、サービス内容等を十分に整理しながら読み、解答する必要がありました。23の問題は、選択肢が英文なので難易度は高いですが、下線部分を注意深く読み、誰がどういう場合に何をするかをしっかり把握しましょう。25の問題の“the founder”は誰のことを問う問題ですが、(3)を選んだ人が多かったです。「設立者」ですので直近の個所には出ていません。熟慮して解答しましょう。

V

■出題のねらい

シャイと言われる人たちの本当の姿と、世間での見え方について述べ、誤解が生じないためのアドバイスが書かれています。熟語力や構文力を問うています。

■採点講評

並び替え問題は苦手な人が多かったようです。普段から熟語力を伸ばしておくといでしょう。例えば、今回“appear to …”「～のように見える」や、“be in trouble”「困っている」などが出てきましたが、読解力だけでなく熟語力も必要です。

該当部分の正しい語の並び方は、次のようになります。

- 1) ③appear ⑤to be ④shy ②and
- 2) ①activities ⑤they ③can ②do alone
- 3) ①you ④are ⑤in ②trouble

講評

I

出典『大学の下流化』（竹内洋）NTT出版

大衆社会の中で進行する「大学の下流化」とも呼ぶべき現象に着目し、日本の「知」について論じた本です。多少硬い言葉で書かれていますが、論旨は明快なので、決して難しい文章ではありません。

問2【漢字の読み方に関する問題】（解答番号は2）

漢文だけでなく現代文にも頻繁に見られる「所以」は、「ゆえん」と読みます。正答率は59%でした。

問3【漢字問題】（解答番号は3～10）

正答と正答率を示しておきます。

c 無償(81%) d 俗物(75%) e 含羞(6%) f 真髓(50%)

問4【空欄補充・前後の文脈から接続語を導き出す】（解答番号は11～13）

空欄Ⅰには逆接のつなぎ方をする接続語が、空欄Ⅱには対比的に補足説明する接続語が入ります。間違いが多かったのは空欄Ⅲです。ここは前の内容を受けて結果を示す順接の接続語よりも、前の内容にさらに詳しい内容を付け加える添加の接続語の方が適切です。完答ということもあり正答率は6%でした。

問5【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は14・15）

教養主義としての読書という観点から考えると、空欄甲に入る最も適当な言葉は、人間の理想としての普遍的価値を示した⑤「真善美」です。⑥「好奇心」を選んでいる受験者がかなりいましたが、直後の「人格の向上」、「社会の改良」という言葉と並列になりうる内容を考えると、単なる好奇心の追求としての読書は当てはまりません。正答率は3%でした。空欄乙は容易にわかるでしょう。正答率は94%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は16）

本文をよく読めば、①～⑤にはそれぞれ本文の内容と異なることが書かれていることに気づくはずで。正答率は78%でした。

問8【内容を理解して該当しないものを選択する問題】（解答番号は18）

嗜み系ではなく溜め込み系の教養になる教養主義の原型となった例として、本文に『善の研究』（西田幾多郎）が挙げられています。①「バタフライ（水泳）」を選ぶ受験者が比較的多かったですが、嗜み系の教養である高等学校生たちの教養の一つとして「モダンでハイカラな近代的スポーツ」が本文中で挙げられています。正答率は66%でした。

問9【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は19）

この節の最後にある「教養人と教養主義者は似て非なるものである」という言葉が大きなヒントとなります。①「ニューアカ・ブームの功罪」を選択した受験者が散見されましたが、「功罪」についてまでは本文で言及されていません。正答率は47%でした。

問10【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は20）

この節では嗜み系と溜め込み系の教養の違いについて述べられていますから、正答を選択するのは難しくはないはずです。③～⑥を選択した受験者もいましたが、③・⑤・⑥は著者の主張にはなく、④はこの節全体の内容を考えると部分的です。正答率は56%でした。

問11【内容合致問題】（解答番号は21・22）

⑥を選択した受験者が多かったのですが、筆者は「新」教養主義の体験者ではありません。⑦を選んだ受験者も散見されましたが、嗜み系の教養人は知識量の増加を追求しませんから本文の内容に合致しません。①・③は明らかに本文の内容と異なります。②は「ひたすら没落の道をたどっており、まことに嘆かわしい限りである」が、④は「文化を深く味わうことのできる教養人を目指したため」が、⑤は「人格主義や社会改良主義を欠いていたがために」が本文に書かれていません。正答率は6%でした。

Ⅱ

出典『唯脳論』（養老孟司）ちくま学芸文庫

内容を掴むことに苦戦した受験者が多かったようです。受験者には、特定の作品だけでなく幅広い書物を読むように心掛けて欲しいと考えています。

問1【漢字問題】（解答番号は23～32）

正答と正答率を示しておきます。

a 厳密（91%） b 終始（84%） c 素養（59%） d 恐慌（53%） e 剰余（59%）

漢字の書き取りは繰り返し勉強していれば点数が取れます。日頃から継続して漢字の練習をするようにしましょう。

問2【空欄補充 副詞の用法】（解答番号は33～35）

いわゆる呼応の副詞といわれるものです。内容はもちろんこと、文末表現にも着目して正答を導き出すようにしましょう。正答は空欄Ⅰが③、空欄Ⅲが②、空欄Ⅳが⑧です。正答率25%でした。

問3【空欄補充 文脈把握】（解答番号は36・37）

空欄Ⅱの前段に子供に教え込むことが書かれています。①が正答です。正答率は63%でした。空欄Ⅴの直後に「もし進化の最初期の～」と書かれている個所がヒントです。③が正答となります。正答率は13%でした。

問4【空欄補充 文脈把握】（解答番号は38）

空欄甲の直後にある「ここが違うのではないか」がヒントです。正答は⑤です。正答率は38%でした。

問5【空欄補充 内容把握】（解答番号は39）

空欄乙の直後にある「機能の進行の手続きに厳重な規定があり」がヒントです。正答は⑥です。正答率は22%でした。

問6【傍線部の説明 内容把握】（解答番号は40）

傍線部Aの前の段落に「同時に起こる過程」と書かれています。どちらか一つだけで書かれている選択肢では間違いとなります。本文を丁寧に読みながら筆者の意図するところを押さえるようにしましょう。正答は②です。正答率は22%でした。

問7【傍線部の説明 内容把握】（解答番号は41）

筆者は「無益な能力」と述べていますが、実際にはこのような能力を必要だと言っています。この点を把握した上で、第一節最終段落の内容を押さえる必要があります。正答は②です。正答率は25%でした。

問8【内容合致】（解答番号は42・43）

正答は②・③です。受験者には難しい問題であったようです。正答率は19%でした。